

金剛製雛形紡織具

この金銅製の雛形織機は展示用に部分的に織られた織物からも分かる様に、正確なディテールで作られています。織物技術は 3 世紀までに朝鮮半島から日本にもたらされました。その少し以前に中国から伝来し、特に絹を用いた織物生産は、その後数世紀の間に宮廷の厚い庇護を受けました。同様の雛形織機は、太陽神・天照大神を祀る本殿・伊勢神宮のいわゆる神宝の一つで、沖ノ島での儀式が「律令国家」として知られる 8 世紀の改革された中央集権制の下で、後に行われた儀式の先例であることを示しています。